

第3回宇美町総合計画審議会

日時：令和8年8月20日（木）14時から

会場：宇美町役場2階大会議室（左）

— 次 第 —

1. 議題

後期実践計画【基本目標1～3】（案）について

次回開催日： 月 日（ 曜日）

第7次宇美町総合計画

施策の体系図



第7次宇美町総合計画

施策の体系図



1-1 子育て支援の充実

現状と課題

～ 現 状 ～

妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援

●少子化の進行や共働き世帯の増加、物価高騰などにより、妊娠・出産・子育てに伴う不安や経済的負担は増えています。妊娠期から子育て期まで、健康管理、産後ケア、経済的支援を切れ目なく届けることが重要です。

●本町では、令和6年4月に「こども家庭センター」を開設し、母子保健と児童福祉を一体的に運用しています。妊産婦健診、産後ケア、乳幼児健診、5歳児健診、うみっ子健診などを通じ、早期把握と伴走型支援を進めています。

多様な子育て支援と保育サービス

●待機児童「0人」を維持するとともに、子育て支援センター「ゆうゆう」、ファミリー・サポート・センター、病児保育、おやこ手帳アプリ「うみにょん」など、家庭の状況や働き方に応じた支援を進めています。

●また、子育て世帯への給付、保育料や医療費、学校給食費の負担軽減を進めています。今後は、こども誰でも通園制度への対応、幼保小の連携、施設のデジタル化や計画的な維持管理など、支援を安定して届ける環境整備が求められます。

～ 課 題 ～

●こども家庭センターを支援の中核としてさらに周知し、妊産婦、保護者、こどもが相談しやすい窓口と伴走型支援を充実させる必要があります。

●健診や相談の機会を活用して支援を必要とする家庭を早期に把握し、産後ケア、訪問支援、ヘルパー利用など必要なサービスへ確実につなぐ体制が必要です。

●病児保育、ファミリー・サポート・センター、子育て支援センター等の利用促進に加え、誰でも通園制度など多様なニーズに応じた保育サービスを充実させる必要があります。

●幼保小の連携を深め、就学前から小学校への円滑な移行を支えるとともに、中高生を含むこどもが安心して過ごせる居場所を確保する必要があります。

●子育て世帯の経済的負担を継続して軽減するとともに、子育て支援施設や公園の計画的な維持管理、バリアフリー化、保育施設のデジタル環境整備を進める必要があります。

施策の方向性

1 妊娠・出産期の支援の充実

- ・妊娠前から健康管理を支援し、妊婦健診費用を助成します。
- ・ヘルパー、タクシー、産後ケアの利用を支援します。

2 子育て世代への経済的支援の充実

- ・妊婦給付金により子育て世帯の負担を軽減します。
- ・第3子以降の保育料無償化を継続します。
- ・こども医療費や小学校給食費の負担を軽減します。

3 子育てに関する相談体制の強化

- ・こども家庭センターで切れ目ない相談支援を行います。
- ・虐待やヤングケアラー等に包括的に対応します。

4 子どもの発育・健康への支援

- ・乳幼児健診と保健指導で健やかな成長を支援します。
- ・5歳児健診を継続し、発育・発達を確認します。
- ・うみっ子健診と保健指導で生活習慣病を予防します。

5 地域子ども・子育て支援事業の充実

- ・「ゆうゆう」の交流・相談機能を充実します。
- ・ファミリー・サポートの会員拡充と利用促進を図ります。
- ・「うみにょん」で情報集約とオンライン化を進めます。
- ・幼保小の連携により円滑な就学移行を支援します。
- ・中高生の居場所を確保し、必要な支援につなげます。

6 多様な就学前教育・保育サービスの提供

- ・こども誰でも通園制度の充実を図ります。
- ・待機児童ゼロを維持し、希望時期の入園を調整します。
- ・延長保育と一時保育を継続します。
- ・3町連携で病児保育を安定運営し、利用を促進します。

7 子育て支援施設の環境整備

- ・誰もが利用しやすいインクルーシブな公園を整備します。
- ・保育施設のデジタル化で保育環境を向上します。
- ・子育て支援施設を計画的に維持管理します。

指標

実感指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う市民の割合	51.6%	70%

客観指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
相談できる場所を知っている保護者の割合(4か月児の保護者)	92%	90%以上
幼児健診(1歳6か月・3歳児)の平均受診率	94.6%	97.4%
うみっ子健診の保健指導率	97.5%	98.4%
毎年4月1日時点の待機児童数	0	0



1-2 学校教育の充実

現状と課題

～ 現 状 ～

確かな学力の育成

●1人1台端末の定着や生成AIの普及により、学び方は大きく変化しています。本町では、学力向上プラン、学校訪問、ICT研修を通して授業改善を進めています。

●学力調査では全国平均を下回る項目があり、学年が上がる中で学力を伸ばす取組の強化が必要です。

心と体の支援

●不登校やいじめ、体力低下への対応は全国的な課題です。本町では、くすのき教室、教育相談室、SSW、WEBQUの活用により、早期把握と支援体制の充実を進めています。

地域と教育環境

●全小中学校でコミュニティ・スクールを運営し、地域とともにある学校づくりを進めています。また、学校施設の長寿化、空調整備、教職員研修、働き方改革にも取り組んでいます。

～ 課 題 ～

●「こどもが主体的に学ぶ授業」へ転換し、学力向上プランを授業改善に直結させる必要があります。

●ICTや生成AIの活用に学校・教員間の差が出ないよう、実践共有と研修を進める必要があります。

●不登校・いじめの未然防止と早期対応のため、学校、相談機関、SSW等の連携を強める必要があります。

●体力向上、施設整備、教職員の働き方改革を計画的に進め、こどもに向き合う時間を確保する必要があります。

●コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、地域とともにある学校づくりを一層推進することが必要です。

●小中学校長寿化計画に基づく計画的な施設改修と、猛暑対策としての空調整備を進めることが必要です。

●町の教育課題や若年教員のニーズに対応した研修を充実させることが必要です。

●教職員の働き方改革に向けて、勤務実態の把握と業務改善、部活動の地域移行を着実に進めることが必要です。

施策の方向性

1 誰もが学びにアクセスできる環境の充実

・多様な学びの場を整え、安心して学べる環境をつくります。
・オンライン学習等により、いつでも学べる環境をつくります。
・関係機関と連携し、欠席早期段階からの不登校支援を行います。

2 一人一人が成長できたと実感できる学力の向上

・学力調査を授業改善につなげ、学力向上を推進します。
・ICTと生成AIを活用し、分かる授業づくりを進めます。
・支援員を活用し、一人一人に応じた学習を支援します。

3 豊かな心、健やかな体の育成

・生活アンケートを活用し、組織的な生徒支援を進めます。
・授業改善と各校の取組みを通じ、運動習慣の定着を図ります。
・部活動の地域展開を進め、持続可能な地域クラブ活動を運営します。

4 地域とともにある学校づくりの推進

・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)と協働し、学びの場づくりを進めます。
・小学校区コミュニティ運営協議会と連携し、地域とともにある学校をつくります。
・学校公開等を通じ、学校と地域の相互理解を深めます。
・児童生徒数の減少を見据えた地域との懇談会を行います。

5 安全で快適な教育環境の整備

・計画的な施設改修により、安全な学校環境を整えます。
・LED化と体育館の空調整備により、快適な学習環境をつくります。

6 教職員の指導力向上と働き方改革の推進

・教育課題やニーズに応じた研修を通じ、教職員の授業力を高めます。
・調査データを活用し、学校課題に応じた支援を行います。
・業務や会議・行事を見直し、教職員の健康を守ります。
・校務DXと外部連携により、児童生徒と向き合う時間を確保します。

指標

実感指標

指標名		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
学校生活に満足している児童生徒の割合 (WEBQUテストにおける学級生活満足群の割合)	小学校	64.0%	70%
	中学校	59.2%	70%

客観指標

指標名		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
全国学力・学習状況調査 IRTバンド(3・4・5の割合) ※実施対象は小6中3 現状値はR9	小6国語	%	%
	小6算数	%	%
	中3国語	%	%
	中3数学	%	%
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる児童生徒の割合	小学校	82.6%	90%
	中学校	73.7%	80%



1-3 生涯にわたる学びとスポーツ・文化活動の推進

現状と課題

～ 現 状 ～

多様な学びの機会

●人生100年時代やデジタル化の進展により、年齢を問わず学び続け、学んだ成果を地域に生かすことが大切になっています。

●本町では、町民の関心やライフステージに応じた講座、サークル活動支援、生涯学習情報の発信を行っています。

スポーツ・文化芸術活動の推進

●健康づくりや交流への関心が高まる中、軽スポーツ大会等を実施し、年齢や障がいの有無にかかわらずスポーツに親しむ機会の確保に取り組んでいます。

●宇美町文化協会と連携した「町民文化のつどい」などにより文化活動への参加者は増えています。

読書活動の活動環境の充実

●スマートフォンの普及により読書離れが懸念される中、蔵書の充実、電子書籍の利用促進、各種イベント等により、こどもから高齢者まで読書に親しむ機会の充実を図っています。

●各種公共施設は学びや交流の拠点として利用されており、老朽化に対応した計画的な維持管理を進めています。

～ 課 題 ～

●町民の関心や生活時間に応じ、対面とデジタルを組み合わせた学びの機会を充実し、誰もが参加しやすい環境を整える必要があります。

●学びの成果を地域で生かす機会を広げるとともに、「ふるさと宇美」を体感できる学びを通じ、地域への関心と愛着を高める必要があります。

●年齢、性別、障がいの有無等にかかわらずスポーツに親しめる機会を確保し、町民の運動習慣の定着につなげる必要があります。

●スポーツ・文化芸術団体の担い手を確保し、若い世代を含む多様な町民が参加しやすい活動環境を整える必要があります。

●電子書籍や図書館事業の利用を促進し、こどもから高齢者まで継続的に読書に親しむ機会を充実する必要があります。

●社会教育施設及び社会体育施設について、利用ニーズを踏まえた計画的な修繕・維持管理を行い、安全で快適な利用環境を確保する必要があります。

施策の方向性

1 生涯学習の推進

- ・ライフステージに応じた誰もが参加できる学びの機会を提供します。
- ・「ふるさと宇美」を体感できるふるさと教育を行います。

2 誰もががスポーツに親しめる環境づくり

- ・誰もが楽しめる軽スポーツ大会を実施します。
- ・成長段階に応じたスポーツ機会を確保します。
- ・「する」「みる」「ささえる」スポーツを推進します。
- ・地域ニーズに応じたスポーツ活動を進めます。

3 文化・芸術活動の推進

- ・文化芸術の発表・鑑賞・体験機会を提供します。
- ・文化芸術団体の活動支援と連携を強化します。

4 町立図書館を中心とした読書活動の推進

- ・電子書籍の利用を促進します。
- ・図書館・読書イベントで読書機会を創出します。

5 社会教育施設の環境維持

- ・社会教育施設を計画的に維持管理します。

指標

実感指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
スポーツ・文化活動が活発なまち だと思う町民の割合	26.5%	前年比増

客観指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
週に1日以上運動をした町民の割合	42.9%	65.0%
町主催・共催の芸術文化行事の参加者数	3,294人	4,260人



1-4 子どもの健全育成

現状と課題

～ 現 状 ～

こどもの体験活動と家庭教育

● 地域のつながりの希薄化や生活様式の変化により、こどもが地域の大人や異なる世代と関わり、多様な体験を得る機会が減少しています。

● 本町では、公民館講座、体験交流事業、地域学校協働活動等を通じて、こどもの学びと体験の機会を提供するとともに、家庭教育に関する啓発を行っています。

青少年活動と地域とのつながり

● 青少年関係団体や地域と連携し、野外活動や地域行事等を通じて、青少年の健全育成と地域で活躍する機会の確保に取り組んでいます。

● 一方で、青少年関係団体では担い手不足や運営負担が課題となっており、参加方法の工夫やデジタル技術の活用など、活動を継続するための対応が求められています。

こどもの読書活動

● 町立図書館では、読書リーダー・読書サポーターの養成、学校図書館との連携、調べる学習等を通じ、こどもの読書習慣と図書館活用能力の向上を進めています。

● 家庭、学校、園、地域、図書館等が連携し、こどもの発達段階に応じた本に親しむ機会を継続的に提供する取組を進めています。

～ 課 題 ～

● 地域、学校、関係団体が連携し、こどもが主体的に参加できる多様な体験活動を継続するとともに、新たな体験機会を創出する必要があります。

● 家庭教育の重要性を分かりやすく伝え、保護者が参加しやすい講座や情報発信を充実し、家庭・学校・地域が連携した取組を進める必要があります。

● 青少年が地域で活躍できる場を確保し、地域への関心や社会性を育む機会を継続的に提供する必要があります。

● 青少年関係団体の担い手確保と負担軽減に向け、参加方法や運営方法を工夫し、持続可能な活動体制を整える必要があります。

● 読書リーダー等の育成や学校図書館との連携を進め、こどもの読書習慣と情報活用能力を高める必要があります。

● 家庭、学校、園、地域、図書館等の連携を強化し、こどもの発達段階に応じた読書機会を継続的に確保する必要があります。

施策の方向性

1 こどもの体験活動等の充実と家庭教育の推進

- ・地域等と連携し多様な体験活動を提供します。
- ・家庭教育の大切さを講座等で啓発します。
- ・国際交流等で新たな体験活動を創出します。

2 青少年関係団体の活動支援

- ・地域で青少年が活躍できる場を創出します。
- ・活動への参加方法を工夫し団体の担い手確保を図ります。

3 こども読書活動の推進

- ・読書リーダーや読書サポーターを育成し読書習慣を促します。
- ・学校図書館と連携し調べる学習を進めます。
- ・保育園や学校等と連携し発達段階に応じた読書を促します。

指標

実感指標

指標名		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小6	83.2%	85.0%
	中3	70.7%	75.0%

客観指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
こどもの体験活動に満足した参加者の割合	95%	95%
町内幼稚園・保育所等への町立図書館年間貸出冊数	5,105冊	6,400冊



2-1 地域で支えあう福祉環境の充実

現状と課題

～ 現 状 ～

地域共生社会の実現

●高齢化や単身世帯の増加に加え、障がい、生活困窮、社会的孤立等の生活課題が複雑化・複合化しており、制度や分野を越えた支え合いの重要性が高まっています。

●本町では、認知症や障がいへの理解促進、民生委員児童委員や自治会等による見守りを通じ、地域で支え合う福祉環境づくりを進めています。

包括的な相談・支援体制

●関係課、社会福祉協議会、医療・介護・障がい福祉等の関係機関が連携し、相談支援、生活困窮者への巡回相談、個別訪問等を実施しています。

●成年後見制度の利用促進や権利擁護支援の充実に向け、相談・支援の拠点となる中核機関の整備など、支援につながりやすい体制づくりを進めています。

地域包括ケアと福祉サービス

●地域包括支援センターを中心に、生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らせる支援体制の整備を進めています。

●福祉・介護サービスの質の向上に向け、事業者への情報提供、連絡会、個別ケア会議、事例検討等を通じた連携と支援を行っています。

～ 課 題 ～

●認知症や障がいへの理解を深めるとともに、地域の見守りを通じ、支援につがっていない人を早期に把握する必要があります。

●高齢、障がい、生活困窮等の複数の課題を抱える世帯に対し、制度や分野を越えて関係機関が連携する包括的な支援体制を強化する必要があります。

●成年後見制度の利用促進と権利擁護支援を進めるため、中核機関を整備し、相談から支援まで切れ目なく対応できる体制を確保する必要があります。

●生活困窮等の相談窓口を利用しやすくし、相談者の状況に応じた制度利用や関係機関へのつなぎ、支援後のフォローを充実する必要があります。

●地域包括支援センターを中心とした連携を強化し、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できる地域包括ケア体制を深化させる必要があります。

●サービス事業者等との連携、研修、ケア会議等を継続し、利用者に寄り添った福祉・介護サービスの質を確保・向上する必要があります。

施策の方向性

1 地域共生社会の実現に向けた支え合いの推進

- ・認知症や障がいへの理解を深めます。
- ・地域連携で支援につがらない人を把握します。
- ・関係機関と連携し早期対応と見守りを進めます。

2 誰もが安心して暮らせる包括的な相談・支援体制の充実

- ・成年後見制度の中核機関を設置します。
- ・障がい者等の生活支援体制と連携を強化します。
- ・関係機関と連携し包括的な相談支援を行います。
- ・生活困窮の巡回相談を継続します。
- ・相談から支援後まで切れ目なく支援します。

3 地域包括ケアシステムの深化と福祉・介護サービスの向上

- ・地域包括支援センターを中心に支援体制を整えます。
- ・研修やケア会議等で福祉・介護サービスの質を高めます。

指標

実感指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
地域の福祉活動に参加する意向がある町民の割合	39.1%	45.0%
障がいのある人が安心して暮らせるまちだと思ふ町民の割合	25.1%	30.0%

客観指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
成年後見制度に関する中核機関設置数	0箇所	1箇所
高齢者等個別訪問の年間延べ件数	6,381件	件



2-2 いつまでも健康でいきいきと暮らせるまちづくりの推進

現状と課題

～ 現 状 ～

生活習慣病の予防と健康づくり

●高齢化の進行に伴い、健康寿命の延伸と医療・介護負担の抑制が重要となっています。本町では、うみっ子健診、特定健診、各種健診・検診、保健指導等を通じて健康づくりを進めています。

●健診受診や保健指導の取組を進める一方、高血圧や糖尿病等の生活習慣病の発症・重症化予防に向け、健診・医療・介護データを活用した継続的な支援が求められています。

介護予防と生きがいづくり

●自治会等と連携した介護予防教室や地域の通いの場を通じ、高齢者のセルフケア、フレイル予防、社会参加の促進に取り組んでいます。

●高齢者が知識や経験を生かして地域の支え手として活躍することや、認知症になっても役割を持って活動できる環境づくりが重要となっています。

保健衛生と健康危機管理

●感染症の発症・重症化予防に向け、適切な時期の情報発信や予防接種の実施など、町民の健康を守る取組を進めています。

●県、医師会、医療機関等の関係機関と連携し、感染症等の健康危機に対応できる体制を維持するとともに、町民のセルフケア能力の向上を支援しています。

～ 課 題 ～

●健診・検診の受診を促進し、結果に応じた保健指導や受診勧奨を確実に届け、疾病の早期発見・早期治療につなげる必要があります。

●健診・医療・介護データを活用し、高血圧や糖尿病等の生活習慣病の発症・重症化を予防する継続的な支援を強化する必要があります。

●こどもから高齢者まで切れ目のない健康づくりを進め、自ら健康状態を把握し、適切な生活習慣を選択できる力を高める必要があります。

●介護予防教室や地域の通いの場への参加を促進し、フレイル予防とセルフマネジメントの定着を図る必要があります。

●高齢者が知識や経験を生かして地域で活躍できる場を広げ、社会参加、生きがいづくり及び介護予防につなげる必要があります。

●感染症等の健康危機に備え、適切な情報発信と予防接種体制を維持するとともに、関係機関との連携を継続的に強化する必要があります。

施策の方向性

1 生涯を通じた健康づくりの推進と疾病予防

- ・健康と疾病予防の正しい知識を普及します。
- ・データを活用し疾病の早期発見・治療を進めます。
- ・世代を通じた生活習慣病予防を支援します。

2 社会参加と生きがいづくりによる介護予防の推進

- ・介護予防教室への参加を促進します。
- ・セルフケアと自己管理の定着を図ります。
- ・地域の介護予防と社会参加の場を広げます。
- ・高齢者の活躍を生きがいと介護予防につなげます。
- ・認知症でも地域で役割を持てる環境を整えます。

3 保健衛生の充実と健康危機管理体制の強化

- ・感染症情報を適切に発信し予防を支援します。
- ・関係機関と連携し予防接種体制を整えます。

指標

実感指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できていると思う町民の割合	81.4%	85.0%

客観指標

指標名		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
健康寿命(平均自立期間)と平均寿命の差	男性	1.4歳	0.9歳
	女性	2.3歳	2.3歳
(検討中)要支援・要介護認定率			
(検討中)新規認定者平均年齢			



3-1 災害に強いまちづくりの推進

現状と課題

～ 現 状 ～

防災体制の確立

●地域防災計画及び備蓄計画に基づき、資機材や備蓄物資を整備するとともに、災害時に必要な物資や支援体制の確保に取り組んでいます。

●関係機関や民間事業者等との災害協定を締結し、災害時の応援・物資供給体制を整備しています。

地域防災力の強化

●出前講座や啓発活動、避難訓練を実施するとともに、自主防災組織の設立支援や防災士の育成を通じ、地域の防災力向上に取り組んでいます。

●関係機関、自治会、民生委員等と連携し、避難行動要支援者名簿への掲載促進や避難支援体制の整備を進めています。

～ 課 題 ～

●大雨、台風、地震など多様化・激甚化する災害に備え、資機材や備蓄物資を計画的に整備する必要があります。

●高齢者、乳幼児、障がいのある人など、多様な被災者の状況に配慮した備蓄や避難所運営が求められています。

●災害協定の見直しや締結拡大を進め、関係機関や民間事業者等と連携した実効性のある支援体制の強化が必要です。

●自主防災組織の設立・活動支援、防災士の育成、訓練の充実により、地域で助け合う防災力を高める必要があります。

●避難行動要支援者一人一人の状況に応じ、個別避難計画の策定・更新と避難支援体制の充実が必要です。

●消防団の活動や必要性を広く周知し、多様な担い手の確保と装備・訓練の充実を進める必要があります。

施策の方向性

1 防災体制の整備

- ・災害協定の見直しと締結拡大により連携体制を強化します。
- ・防災計画に基づき必要な資機材と備蓄物資を整備します。

2 地域での防災力の強化

- ・出前講座や啓発活動を通じて防災意識を高めます。
- ・自主防災組織の設立を支援し、地域の備えを強化します。
- ・防災士の育成と研修により地域防災の担い手を育成します。
- ・全町的な避難訓練により地域の防災力を高めます。

3 避難行動要支援者対策に関する取組の充実

- ・関係機関と連携し、要支援者の把握を進めます。
- ・個別避難計画を計画的に策定・更新し避難を支えます。

4 消防団活動の充実

- ・装備の充実と研修により消防団活動の資を高めます。
- ・広報やSNSで消防団活動を発信し団員確保を進めます。
- ・機能別消防団員や女性消防団員の拡充を行います。



指標

実感指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
自分は災害への備えができていると思う町民の割合	25.0%	40.0%

客観指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
防災ハザードマップを見て避難場所までのルートを確認したことがある町民の割合	61.7%	80.0%
防災メールまたは防災情報(SNS)の登録者数	14,005人	17,500人
自主防災組織数	13組織	40組織
消防団員数	165人	197人



3-2 防犯・交通安全対策の推進

現状と課題

～ 現 状 ～

地域の防犯体制と防犯意識

●特殊詐欺やSNS等を悪用した犯罪、こども・高齢者を狙った犯罪への不安が高まっています。本町では、自治会、学校、警察等と連携した見守り、防犯カメラの設置等を進めています。

●青色パトロールや地域の自主的な防犯活動を実施するとともに、犯罪情報をホームページやSNS等で発信し、防犯意識の向上と犯罪抑止に取り組んでいます。

消費者被害の防止

●高齢者を中心に、特殊詐欺や悪質商法等の消費者被害が懸念されています。本町では、広報、自治会回覧、SNS、出前講座等を通じた啓発を行っています。

●かすや中南部広域消費生活センターによる相談窓口を周知し、被害の未然防止と早期相談につなげる取組を進めています。

交通安全対策の推進

●こどもの通学路の安全確保や高齢運転者の事故防止など、日常生活に身近な交通安全対策の重要性が高まっています。

●本町では、警察や交通安全協会等と連携し、小学生への交通安全教室、交通安全キャンペーン等を実施するとともに、高齢者の運転免許証自主返納の促進に取り組んでいます。

～ 課 題 ～

●自治会、小学校区コミュニティ運営協議会、学校、警察等が連携し、地域の見守り活動を継続できる防犯体制を強化する必要があります。

●防犯カメラや青色パトロールを効果的に活用するとともに、犯罪情報を迅速に発信し、町民の防犯意識と犯罪抑止力を高める必要があります。

●特殊詐欺や悪質商法等の手口を分かりやすく周知し、とりわけ高齢者の消費者被害の未然防止に向けた啓発を継続する必要があります。

●消費生活相談窓口の認知度を高め、被害の未然防止と早期相談・早期解決につながる相談体制を充実する必要があります。

●こどもや高齢者を中心に交通安全教育と啓発を継続し、歩行者、自転車利用者、運転者の交通安全意識を高める必要があります。

●警察や交通安全協会等と連携した事故防止対策を進めるとともに、高齢者の運転免許証自主返納を促進する必要があります。

施策の方向性

1 防犯体制の充実

- ・地域・学校・関係機関が連携する防犯活動を強化します。
- ・地域の安全確保に向け防犯カメラの設置を進めます。

2 防犯意識の高揚

- ・関係機関と連携し、防犯に関する啓発を進めます。
- ・犯罪情報を迅速に発信し、注意喚起を行います。

3 消費者被害の拡大防止

- ・多様な媒体で詐欺被害防止の情報を発信します。
- ・出前講座により高齢者の消費者被害を防止します。
- ・消費生活相談を周知し、早期相談につなげます。
- ・講座やパンフレットを通じ消費者教育を推進します。

4 交通安全、飲酒運転撲滅等のPR

- ・交通安全教室により児童の安全行動を育てます。
- ・免許証の自主返納を促進し高齢者事故を防ぎます。
- ・関係機関と連携し交通安全と飲酒運転根絶を啓発します。



指標

実感指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
犯罪や交通事故が少なく安全なまちだと思う町民の割合	37.3%	50.0%

客観指標

指標名	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
地域の防犯カメラ設置箇所数	43箇所	55箇所
見守りの年間巡回件数	206件	200件

